

トビウオ通信 (H18 第 6 号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成 18 年度第 2 回日本海スルメイカ漁況予報》

当技術センターをはじめとして北海道から長崎県までの水産研究機関と独立行政法人水産総合研究センターが協議し、日本海区水産研究所がとりまとめた第 2 回日本海スルメイカ長期漁海況予報（平成 18 年 7 月 24 日付け）が発表されました。今回はその内容を基に、今後のスルメイカの漁況を検討します。

スルメイカ漁況の今後の見通し（予報期間 8～12 月）

西部日本海

- 10 月以降の産卵南下群が漁獲対象となる
- 10 月は近年並みの来遊量が予想されるが 11 月以降は近年平均を下回る
- 魚体の大きさは近年平均並み

日本海沖合域

- 大和堆付近の海域で 7～9 月を中心に漁場が形成され、近年並みの漁況が期待できる
- 11 月以降の漁況は近年平均を下回る
- 魚体の大きさは近年平均並み

※近年：過去 5 年間（2001～2005 年）

漁場一斉調査によるスルメイカの分布状況

平成 18 年 6 月に日本海区水産研究所および各県の水産研究機関によりスルメイカの漁場一斉調査が実施されました。図 1 に釣獲試験によるスルメイカの分布量を CPUE（釣機 1 台 1 時間あたりの漁獲量）で示しました。

【海域別の分布状況】

- 1) 道北～道央海域では、CPUEが 30 個体前後（平均外套背長は 17～18cm 台）と比較的分布密度の高い海域もありましたが、概ね CPUE は 10 個体以下（平均外套背長は 21～22cm 台）と分布密度は低い傾向にありました。
- 2) 新潟～秋田沖では、平均外套背長は 17～18cm 台と小型であったものの、CPUE が 50 個体前後と分布密度が高い傾向にありました。
- 3) 大和堆以西の沖合域では平均外套背長が 21～22cm と大型であり、CPUE も 50 個体前後の分布密度の高い調査点が多く見られました。
- 4) 能登半島以西～山陰沿岸域では、調査点が比較的少ないものの、平均外套背長は 17～18cm 台の小型の個体が分布し、分布密度も CPUE も 10 個体以下と低い傾向にありました。

【分布量から推定された資源水準】

今年のスルメイカの分布密度を示す CPUE（釣り機1台1時間あたりの採集個体数）の全調査点の平均は15.8 個体でした（図2）。この値は昨年の値(16.2 個体)の97%、過去5年間の平均値(18.4 個体)の86%でした。このことから、今年の日本海におけるスルメイカの資源量は、昨年とほぼ同様の水準であるが、近年5年平均を下回ると推定されました。

今後の島根県沖での漁況

スルメイカは低調傾向続く・・・

浜田港に水揚げされた小型イカ釣（5トン以 30トン未満）、中型イカ釣（30トン以上）によるスルメイカの月別の漁獲動向を図3に示しました。前報（2号）以降は能登半島以東の海域を中心に漁場が形成されたため山陰沖における漁獲は低調に推移しました。このため、浜田港における平成18年5月までの水揚量は451トンで、前年同期の40%、平年同期の41%となりました。

例年、8月以降の漁獲量は少なく、前述のとおり日本海全域におけるスルメイカの資源量も、昨年と同水準で近年よりも少ないと判断されていることから、島根県沖へのスルメイカの今後の来遊量は、残念ながらあまり期待できないものと考えられます。

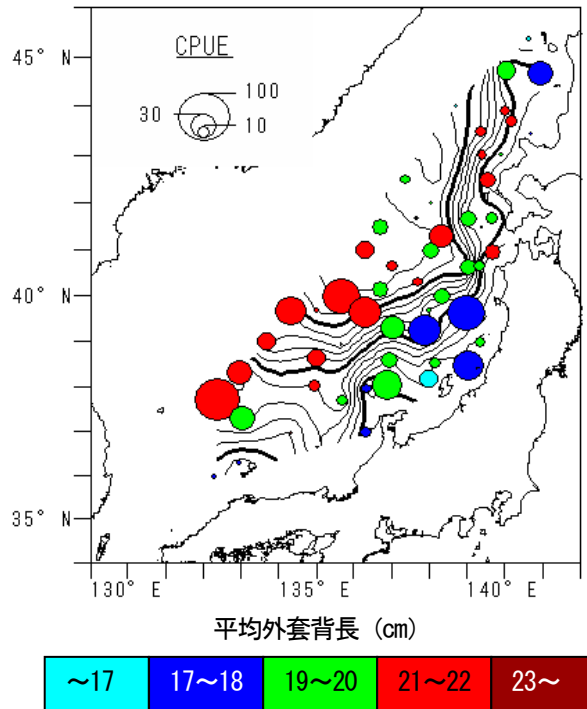


図1 漁場一斉調査によるスルメイカの分布状況
●の面積は各調査点におけるCPUEを示し、色は平均外套長を示す

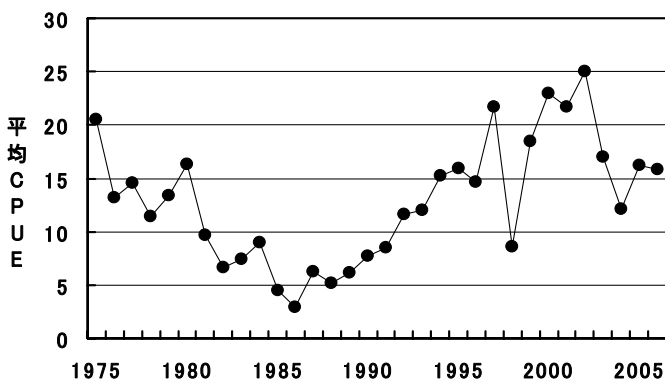


図2 漁場一斉調査における平均CPUE（釣り機1台1時間あたりの漁獲量）の経年

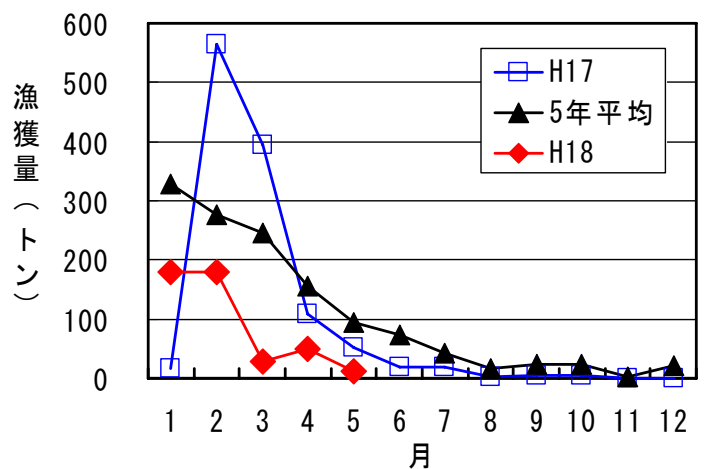


図3 浜田港にイカ釣り漁業（5トン以上）により水揚げされたスルメイカの漁獲動向（H18は5月までの値）